

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470300569		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	グループホーム“シルバーエイジ” Aグループ		
所在地	大分県中津市諸町1799番地		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.pref.oita.jp/site/144/24kaigo-service-kouhyou.html>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①看護師が配置され利用者の日常の健康状態を把握し状態の変化や異常時などには併設病院との連携で早い対応ができ、安心して生活が送れるように支援している。②開設以来、地域住民と交流があり、入居者の誕生日会・施設行事に地域の方々に参加して頂いている。また、入居者が近隣散歩や祭りの見学等で近隣住民に会う機会がある。③職員は常に入居者本位を掲げ、自分たちのケアが入居者のためになっているのかを自問しながら毎日寄り添うケアを目指している。④新人教育プログラムの作成、業務の手順書や介護についてのマニュアルを整備し、全職員が統一した適正なケアが提供できるように取り組んでいる。⑤職員は学習意欲が高く、積極的に外部研修に参加している。部署内勉強会を毎月開催し認知症に関する情報を共有している。また、介護支援専門員などの資格取得に意欲的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・全職員で利用者の心身の状況を把握・確認し、統一した支援や声掛けが行われている。
・利用者の心身の情報を栄養部門やリハビリ専門職に繋げ、安全や自立支援に繋がった生活リハビリや食事を楽しむ支援に繋げている。
・「家族の交流記録」「ユニットノート」「介護計画モニタリング」など記録が丁寧に具体的に記入されており、情報共有や利用者支援に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	1/9			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は名札の裏に運営理念を入れ、また施設内に理念を掲示することにより日々のサービスの提供場面において反映されるように取り組んでいる。	理念は、職員間で情報共有された支援や、利用者の感性や生活歴を活かした支援の実践に活かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治委員、民生委員へ定期的に事業所だよりを配布しており運営推進会議にて地域との交流に努めている。地域の方からの提案で歌やお笑い等DVDの寄付があり利用者は楽しみにしている。	地域との交流困難な状況が続くが、ボランティアとして訪問を受けていた地域の人から利用者の様子を気に掛けられたり、入居申し込みに訪れた家族の認知症の症状や対応についての相談を受けアドバイスをを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方へ研修報告を行い、認知症について啓発活動を行っている。また、認知症の家族介護をしている方の相談対応を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し事業所の報告と共に参加メンバーからの質問や意見などをもらいサービスの向上に努めている。	今年度5月より対面での運営推進会議に向けて始動している。利用者の状況や事業所の運営状況を報告し、認知症の学びも行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へ提出する書類など手続きの助言や指導を受けてスムーズに運営が出来ている。2ヶ月に1回の運営推進会議では入居者の状態やケアの取り組み、施設の状況等を伝えアドバイスを頂いている。	コロナ感染症が5類対応となり、対面での運営推進会議を開始するにあたり、開催場所などのアドバイスを受けている。運営推進会議は、包括支援センターと介護長寿課が交互で出席している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを施設の方針としており全ての職員は意識して実践している。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催しており実状の報告や事例検討を行っている。	行動の抑制や制限などの言葉掛けに配慮し、居室での利用者の動きには、職員が即、対応するよう職員間での意識付けが行われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政主催の権利擁護研修会に職員は参加しており高齢者虐待防止関連法について学んでいる。各職員は事業所内での虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修で制度の理解は出来ている。以前、制度を利用している入居者がおり、後見人の方と連携し入居者の支援を行うことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や取り組みなど十分な説明を行い、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ電話で連絡時や荷物の受け取り時、施設への意見や要望等を聞き、施設内で話し合い適正な施設運営の参考にしてしている。	家族から様々な場面で、意見や要望を聞く機会がもたれている。「家族交流記録」ファイルには、家族からの意見や思いも記入され、全職員での共有も図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、役職者ミーティングを開催し意見交換を行っている。各ユニットのリーダー間で業務について話し合いサービスの質の向上を目的に業務改善を行っている。	ユニット会議やミーティング以外にも、日常の勤務の中で、業務の流れや利用者支援について意見や提案を表出する機会があり、ユニットノートに記録され、検討・実践が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護業務マニュアル、役職者の業務基準や手順を整備し役割の責任が見えるように整えている。やりがいや向上心を持って働けるよう資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会に加え、法人内外の研修に積極的に参加している。新人指導マニュアルを整備し、グループメンバー全員が指導に関わる仕組みを作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会へ参加し、各事業所と情報交換が行えている。連絡会で得た情報を自施設の取り組みの参考にしてしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は本人の心身の状態や思いを把握し、職員間で情報共有し安心して受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時には十分に傾聴しどのような対応が出来るのかを事前に話し合い、今までの家庭での状況や環境を把握することによって信頼関係を作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を見極め、必要に応じて他のサービスの利用の調整対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事時のテーブル拭き、湯呑み洗い、おやつ作り、洗濯干しや洗濯たたみ、掃除等各利用者の身体レベルや状況に合わせて協働しながら支え合う関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め電話で連絡時や荷物の受け取り時に日常の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みのある人から手紙が届いた際は返信の手紙を書いて送ったり定期的な面会(オンラインや対面)を依頼し継続的な交流が出来るよう働きかけている。	家族からの手紙で心の安定が保たれる利用者の家族に手紙を依頼したり、週1回の居室での面会が再開され、利用者と家族が満面の笑みで語り合う機会が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人に声掛けしてそれぞれの関係が上手くいくように常に職員が調整役になって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も施設で培われた関係を大切に相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話の中から本人の思いを受け入れられるよう努めている。また本人が嫌がることは特に見極めるよう心掛けている。	事業所利用開始から、1週間のスパンで利用者の気づきを項目別に記入し、入居前に係わりのあった事業所や家族からの情報も含めて思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族と馴染みの関係を築き、昔の様子を聞きながら生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。また利用者家族の交流記録ファイルやユニットノートを作成し情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のペースに合わせた生活が出来よう日々の関わりや毎月のユニット会議等で情報を共有し現状把握に努め利用者の変化にもすぐに対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の生活の中での様子や気づきを伝達しモニタリングに活かせるよう意見を書き出している。また、リハビリ等他職種の意見を聞きながら利用者の立場に沿った介護計画を作成している。	職員の気づきや情報を基に、担当職員や計画作成担当者が主となり、介護計画を作成している。定期的に行われるモニタリングは、丁寧に具体的に記入され、利用者の心身の状況に添った介護計画に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを準備し身体的状況及び日々の暮らしの様子等を記録して職員の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に定期的に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院と連携を取りながら医療処置の必要な場合でも生活リズムを保つために出来る限り入院しないで施設での暮らしが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人が心身の力を出来るだけ発揮できるよう地域包括支援センターと協働し地域の民生委員や自治委員への協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員付き添いにて定期的に対面での受診を行っている。受診時には状態報告用紙に利用者の日々の状態を記載し施設での状態を主治医へ情報提供している。	全員が母体法人を掛かりつけ医としている。毎月の定期受診は職員対応で行われている。皮膚科・歯科は往診対応で、整形外科などの専門医受診は紹介状を書いてもらい、家族対応での受診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。夜間帯など事業所の看護師が不在時は法人内の当直看護師に連絡し当直医の診察を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は入居情報提供用紙を作成し入院中のケアの参考にもらっている。施設での対応可能な段階に回復するために機能訓練を実施してもらっている。退院時は生活支援が十分出来るよう病院から情報を提供してもらい連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について関係者全体で話し合い、出来る限り本人や家族の希望に沿えるようにしている。また、統一した指針を文書化し家族には入所時に説明している。	重度化・急変時には、母体医療スタッフとの協力体制が整っている。身体状況の悪化や低下時は、医師の判断で入院対応となっているが、入院による療養が困難な場合は、事業所内での終末期対応も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の転倒、窒息など緊急時の対応マニュアルを作成し各職員が内容を把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設病院実施の防災訓練時、施設単独で避難訓練を実施している。災害時の備蓄確保を法人で行っている。災害時は法人の建物を地域の方の避難場所として提供する取り決めを行っている。	年2回母体医療機関の避難訓練と同日に、事業所独自の避難実働訓練を行っている。事業所は母体医療機関の4階に位置しており、火災想定訓練では、屋上への避難実働を行っている。職員連絡網も整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人の尊厳を大切に考え声掛けに配慮している。また情報漏洩防止に努め個人情報保護法などを理解し対応している。	入職時、個人情報取り扱いについての学習が定められており、毎年、再確認されている。日々の支援の中で、排泄の確認や若年者への対応など配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思をはっきり伝えられる状況を作り、その思いが少しずつでも反映できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の体調や思いに配慮しながら起床や食事の時間をずらしたり、壁面作りやパズル、漢字や計算等を行ったり柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性を生かし、毎日の身だしなみを整えている。2ヶ月に1回、カットが得意な職員が本人らしさが出るような好きなカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるようにランチョンマットを敷いたり利用者に食事の献立を書いてもらったりしている。湯のみ洗いや食器の片付けができる利用者は職員と一緒にやっている。	毎食、母体法人の給食から配食されている。昼食時、ランチョンマットを利用したり、週1回のおやつ作り、手作りのヨーグルトを食べやすく味付けするなど、食を楽しむ工夫が行われている。毎食、職員も同じものを食べ、味や食べ易さなどの共有も図られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の管理栄養士が立てた献立の食事を提供し15時に栄養科手作りのおやつを提供している。水分量は一日1000～1500ccを目安に毎日、チェックしている。食欲低下がある場合、家人差し入れの好みの飲み物や栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯洗浄や装着介助、うがいなど一人一人に合った支援を行っている。義歯使用している利用者は義歯洗浄剤にて洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。汚染した場合は本人が傷つかないように手早く、また周囲に気付かれないなど配慮しながら対応している。	日中は介護度1から5のほとんどの利用者の、トイレでの排泄支援が行われている。リハビリ専門職からの身体面のアドバイスを、排泄支援に繋げ、トイレでの排泄や衛生品の選択が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給を促しており、トイレ誘導時は腹部マッサージを行っている。手作りのカスピ海ヨーグルトの提供は自然排便を促す効果が得られている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望の時間やタイミングの工夫などを配慮している。入浴ができない場合は陰部洗浄や足浴、ドライシャンプー、清拭等の身体保清を行っている。	週2回から3回、午後の時間帯の入浴を基本としている。入浴順を変えたり、入浴日を入れ替えるなどの工夫を行い、無理のない入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操や運動などの活動を行い、気持ちよく眠れるように働きかけている。体調や希望など本人の状態に応じて臥床する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の効果や副作用、用量などについて理解し、服薬の支援を行い症状の変化の観察に努めている。処方薬マニュアルを作成し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえるよう洗濯干しやたたみ、計算、漢字、パズル等それぞれ興味があることや得意なことができるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は職員と一緒に1階の畑・花壇まで行き、日光に当たることで利用者が気持ちよく生き生きとすごせるよう工夫している。	法人医療機関の診療のない日を中心に、天候の良い日に、敷地内の畑に出向いて外気を楽しむ支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じた買い物で金銭トラブルのないように支援している。利用者の預り金に関しては使途について家族へ報告し合意を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。遠方の家族や知人からの手紙には本人に返事を書くことを声掛けし郵送できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間には一般家庭で使用されている調度品を配置し、手作りの暖簾や行事の写真、季節にあった壁面作りなどを飾り温かい環境作りを工夫している。リビングのテーブル上に花壇で採れた花を飾り季節感が味わえるようにしている。	日中は、ほとんどの利用者が共有スペースの食卓で、リハビリやアクティビティを楽しんでいる。昼食後、窓際のソファで利用者同士でゆったりと過ごす様子を見る事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に利用者が独りになったり気の合う者同士がテーブルを囲んだりソファにかけたり自由に過ごす空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人用のテレビや使い慣れた家具、家族の写真や花などを飾り、安心して過ごせるよう工夫している。	配線コードをテープで覆って固定したり、テレビの向きや物の配置を考慮して、居心地よく安全に過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ること、出来ないことを見極め、混乱や不安を最小限度にし、安心して生活ができるように工夫している。出来る範囲内で本人が達成感を得られるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470300569		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	グループホーム“シルバーエイジ” Bグループ		
所在地	大分県中津市諸町1799番地		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.pref.oita.jp/site/144/24kaigo-service-kouhyou.html>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①看護師が配置され利用者の日常の健康状態を把握し状態の変化や異常時などには併設病院との連携で早い対応ができ、安心して生活が送れるように支援している。②開設以来、地域住民と交流があり、入居者の誕生日会・施設行事に地域の方々に参加して頂いている。また、入居者が近隣散歩や祭りの見学等で近隣住民に会う機会がある。③職員は常に入居者本位を掲げ、自分たちのケアが入居者のためになっているのかを自問しながら毎日寄り添うケアを目指している。④新人教育プログラムの作成、業務の手順書や介護についてのマニュアルを整備し、全職員が統一した適正なケアが提供できるように取り組んでいる。⑤職員は学習意欲が高く、積極的に外部研修に参加している。部署内勉強会を毎月開催し認知症に関する情報を共有している。また、介護支援専門員などの資格取得に意欲的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム“シルバーエイジ” Aグループ】に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	1/9			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は名札の裏に運営理念を入れ、また施設内に理念を掲示することにより日々のサービスの提供場面において反映されるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治委員、民生委員へ定期的に事業所だよりを配布しており運営推進会議にて地域との交流に努めている。地域の方からの提案で歌やお笑い等DVDの寄付があり利用者は楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方へ研修報告を行い、認知症について啓発活動を行っている。また、認知症の家族介護をしている方の相談対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し事業所の報告と共に参加メンバーからの質問や意見などをもらいサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へ提出する書類など手続きの助言や指導を受けてスムーズに運営が出来ている。2ヶ月に1回の運営推進会議では入居者の状態やケアの取り組み、施設の状況等を伝えアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを施設の方針としており全ての職員は意識して実践している。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催しており実状の報告や事例検討を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政主催の権利擁護研修会に職員は参加しており高齢者虐待防止関連法について学んでいる。各職員は事業所内での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修で制度の理解は出来ている。以前、制度を利用している入居者がおり、後見人の方と連携し入居者の支援を行うことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や取り組みなど十分な説明を行い、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ電話で連絡時や荷物の受け取り時、施設への意見や要望等を聞き、施設内で話し合い適正な施設運営の参考にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、役職者ミーティングを開催し意見交換を行っている。各ユニットのリーダー間で業務について話し合いサービスの質の向上を目的に業務改善を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護業務マニュアル、役職者の業務基準や手順を整備し役割の責任が見えるように整えている。やりがいや向上心を持って働けるよう資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会に加え、法人内外の研修に積極的に参加している。新人指導マニュアルを整備し、グループメンバー全員が指導に関わる仕組みを作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会へ参加し、各事業所と情報交換が行えている。連絡会で得た情報を自施設の取り組みの参考にしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は本人の心身の状態や思いを把握し、職員間で情報共有し安心して受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時には十分に傾聴しどのような対応が出来るのかを事前に話し合い、今までの家庭での状況や環境を把握することによって信頼関係を作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を見極め、必要に応じて他のサービスの利用の調整対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事時のテーブル拭き、湯呑み洗い、おやつ作り、洗濯干しや洗濯たたみ、掃除等各利用者の身体レベルや状況に合わせて協働しながら支え合う関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め電話で連絡時や荷物の受け取り時に日常の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みのある人から手紙が届いた際は返信の手紙を書いて送ったり定期的な面会(オンラインや対面)を依頼し継続的な交流が出来るよう働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人に声掛けしてそれぞれの関係が上手くいくように常に職員が調整役になって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も施設で培われた関係を大切に相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話の中から本人の思いを受け入れられるよう努めている。また本人が嫌がることは特に見極めるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族と馴染みの関係を築き、昔の様子を聞きながら生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。また利用者家族の交流記録ファイルやユニットノートを作成し情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のペースに合わせた生活ができるよう日々の関わりや毎月のユニット会議等で情報を共有し現状把握に努め利用者の変化にもすぐに対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の生活の中での様子や気づきを伝達しモニタリングに活かせるよう意見を書き出している。また、リハビリ等他職種の意見を聞きながら利用者の立場に沿った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを準備し身体的状況及び日々の暮らしの様子等を記録して職員の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に定期的に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院と連携を取りながら医療処置の必要な場合でも生活リズムを保つために出来る限り入院しないで施設での暮らしが出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人が心身の力を出来るだけ発揮できるよう地域包括支援センターと協働し地域の民生委員や自治委員への協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員付き添いにて定期的に対面での受診を行っている。受診時には状態報告用紙に利用者の日々の状態を記載し施設での状態を主治医へ情報提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。夜間帯など事業所の看護師が不在時は法人内の当直看護師に連絡し当直医の診察を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は入居情報提供用紙を作成し入院中のケアの参考にもらっている。施設での対応可能な段階に回復するために機能訓練を実施してもらっている。退院時は生活支援が十分出来るよう病院から情報を提供してもらい連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について関係者全体で話し合い、出来る限り本人や家族の希望に沿えるようにしている。また、統一した指針を文書化し家族には入所時に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の転倒、窒息など緊急時の対応マニュアルを作成し各職員が内容を把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設病院実施の防災訓練時、施設単独で避難訓練を実施している。災害時の備蓄確保を法人で行っている。災害時は法人の建物を地域の方の避難場所として提供する取り決めを行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人の尊厳を大切に考え声掛けに配慮している。また情報漏洩防止に努め個人情報保護法などを理解し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思をはっきり伝えられる状況を作り、その思いが少しずつでも反映できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の体調や思いに配慮しながら起床や食事の時間をずらしたり、壁面作りやパズル、漢字や計算等を行ったり柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性を生かし、毎日の身だしなみを整えている。2ヶ月に1回、カットが得意な職員が本人らしさが出るような好きなカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるようにランチョンマットを敷いたり利用者に食事の献立を書いてもらったりしている。湯のみ洗いや食器の片付けができる利用者は職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の管理栄養士が立てた献立の食事を提供し15時に栄養科手作りのおやつを提供している。水分量は一日1000～1500ccを目安に毎日、チェックしている。食欲低下がある場合、家人差し入れの好みの飲み物や栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯洗浄や装着介助、うがいなど一人一人に合った支援を行っている。義歯使用している利用者は義歯洗浄剤にて洗浄している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。汚染した場合は本人が傷つかないように手早く、また周囲に気付かれないなど配慮しながら対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給を促しており、トイレ誘導時は腹部マッサージを行っている。手作りのカスピ海ヨーグルトの提供は自然排便を促す効果が得られている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望の時間やタイミングの工夫などを配慮している。入浴ができない場合は陰部洗浄や足浴、ドライシャンプー、清拭等の身体保清を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操や運動などの活動を行い、気持ちよく眠れるように働きかけている。体調や希望など本人の状態に応じて臥床する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の効果や副作用、用量などについて理解し、服薬の支援を行い症状の変化の観察に努めている。処方薬マニュアルを作成し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえるよう洗濯干しやたたみ、計算、漢字、パズル等それぞれ興味があることや得意なことができるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は職員と一緒に1階の畑・花壇まで行き、日光に当たることで利用者が気持ちよく生き生きとすごせるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じた買い物で金銭トラブルのないように支援している。利用者の預り金に関しては用途について家族へ報告し合意を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。遠方の家族や知人からの手紙には本人に返事を書くことを声掛けし郵送できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間には一般家庭で使用されている調度品を配置し、手作りの暖簾や行事の写真、季節にあった壁面作りなどを飾り温かい環境作りを工夫している。リビングのテーブル上に花壇で採れた花を飾り季節感が味わえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に利用者が独りになったり気の合う者同士がテーブルを囲んだりソファーにかけたり自由に過ごす空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人用のテレビや使い慣れた家具、家族の写真や花などを飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ること、出来ないことを見極め、混乱や不安を最小限度にし、安心して生活ができるように工夫している。出来る範囲内で本人が達成感を得られるように努めている。		